

2020年度事業報告

特定非営利活動法人 産業・環境創造リエゾンセンター

2020年4月1日～2021年3月31日

1 概要

2020年度は、コロナ禍の中での一年であったが、三密にならないなど対策を講じた上での会議の開催、Web リモート会議の活用などにより、会員企業の活発な交流のもとに川崎市との連携を緊密にし、「地域の環境改善への取組」、「市民活動及び他地区との交流」及び「スマートコンビナートの構築と川崎臨海部における情報発信」などを推進する活動を進めた。

川崎市が2018年3月に策定した「臨海部ビジョン」で掲げるリーディングプロジェクトの具体的事業化に向けて「臨海部ビジョン」リエゾン研究会を会員企業と川崎市で共同して昨年度に引き続き活動を進めたが、コロナ禍での対応として対面による研究会及びWeb 活用リモート会議を併用して議論を深めリーディングプロジェクトの着実な実現に寄与した。

第11回目となったスマートコンビナート・シンポジウムについてもコロナウイルス感染拡大防止に配慮した開催を行なった。会場参加者を関係者に限定しWeb 同時配信により、多くの地方コンビナート関係者にも参加をいただいた。成城大学の平野創教授による「コンビナート連携の成果と今後の展望」と題する基調講演の他、特別講演(事例発表)では「スマートコンビナートを目指して 川崎臨海部の取組み」をテーマに、次世代水素エネルギーチェーン技術研究組合、昭和電工株式会社、川崎市臨海部国際戦略本部から講演をいただき川崎臨海部での先進的取組について情報発信及び情報共有を図ることができた。

「川崎臨海部道路等に関する企業・行政懇談会」では、羽田連絡道路及び東扇島・水江町線の進捗状況、継続課題としての冠水対策について川崎市の道路関係部局と会員企業で活発な意見交換を行ない臨海部の環境改善に向けた取り組みを進めた。また、「低CO2川崎ブランド等推進協議会」に参画し川崎市が推進する「低CO2川崎ブランド認定制度」及び「川崎メカニズム認証制度」への支援活動を行った。

コロナ禍により一部の事業では縮小も余儀なくされた。川崎市から受託している「川崎市環境・産業交流コーナー」の管理運営について4月及び5月の開館日数を減らすとともに、市民等との交流事業である夏休み親子見学会を中止した。一方、コロナ禍がいったん落ち着いた11月に川崎区企業市民交流事業の「かわさき企業市民DAY イベント」に出展する他、Web 開催となった第13回川崎国際環境技術展に出展し、広く市民に対して川崎臨海部の現状と取組、会員企業の取組について紹介を行う活動を実施した。

また、川崎市では、気候変動問題が差し迫った課題であることなどから地球温暖化対策の取組みを加速化させるための「かわさきカーボンゼロチャレンジ2050～2050年に向けた脱炭素戦略～」を2020年11月に策定したが、さまざまな機会を通じて会員企業との情報交換の機会をつくとともに、CO2削減の企業の自主的な取組みが反映されるような仕組みづくりなどについて働きかけを行なった。

2 事業活動内容と成果

(1) 自主事業

ア 定常事業

(ア) 川崎市との政策懇談会 (2回開催)

臨海部に係る最新動向や川崎市の政策課題取組状況・予算措置状況等について、役員・会員と川崎市関係局幹部との活発な意見交換を行った。

<第1回政策懇談会>

- ・日時 2020年11月9日(月)
- ・場所 川崎市産業振興会館 1階ホール
- ・川崎市5局・1本部からの情報提供
 - [環境局] 脱炭素戦略「かわさきカーボンゼロチャレンジ2050(案)」、川崎市プラスチック資源循環への対応方針(案)について
 - [まちづくり局] 川崎駅周辺地区の取組状況について
 - [建設緑政局] 羽田連絡道路の事業進捗について
 - [港湾局] 最近の川崎港の動向について
 - [臨海部国際戦略本部] 臨海部ビジョンの進捗状況について
新型コロナウイルス感染症への川崎臨海部企業の対応状況
 - [経済労働局] 川崎市緊急経済対策～経済労働局の代表的な取組～、
第13回川崎国際環境技術展
第11回全国工場夜景サミット in 川崎について

・会員企業からの情報提供

- [株式会社デイ・シイ] 川崎工場概要
- [富士電機株式会社] 川崎工場の紹介

<第2回政策懇談会>

- ・日時 2021年3月18日(木)
- ・場所 川崎市産業振興会館 1階ホール
- ・川崎市6局・1本部からの情報提供
 - [総務企画局危機管理室] 川崎臨海部の防災対策について
 - [環境局] 川崎市の脱炭素化に向けた取組について
 - [まちづくり局] 川崎駅周辺地区の取組について
 - [建設緑政局] 羽田連絡道路の工事の進捗状況について
川崎シェアサイクルの実証事業の検証結果について
全国都市緑化かわさきフェア開催に向けた取組について
 - [港湾局] コンテナターミナルの利用促進・活性化等について
 - [臨海部国際戦略本部] 臨海部関連令和3年度予算概要について
 - [経済労働局] グリーンイノベーションの推進について
ウェルフェアイノベーションの推進について

・会員企業からの情報提供

[JFE エンジニアリング株式会社] JFE エンジニアリング事業企画部紹介

[昭和電工株式会社] プラスチックケミカルリサイクル事業について

(イ) 川崎市との「臨海部活性化研究会」(2012年1月から実施。2018年度からは「臨海部ビジョン・リエゾン研究会」として活動している。)

「臨海部ビジョン」で、直近10年以内に取り組むと位置付けた「リーディング・プロジェクト」の中から2020年度は「働きたい環境づくりプロジェクト」、「災害対応力向上プロジェクト」、「水素エネルギー推進プロジェクト」、「低炭素型インダストリーエリア構築プロジェクト」の4つのプロジェクトについて議論を深めた。新型コロナウイルス感染状況により、落ち着いた時期には感染対策をとった会場での開催、それ以外の時にはMicrosoft Teamsを利用したWebによる会議開催とした。いずれもグループ討議等により具体的な取り組みに向けての議論を深めた。

参加者 川崎市臨海部国際戦略本部臨海部事業推進部 部長、課長、係長、担当職員
当 NPO 法人会員企業、専務理事、事務局

※「臨海部ビジョン・リエゾン研究会」は、川崎市臨海部国際戦略本部臨海部事業推進部と会員企業で構成している。検討事項によって経済労働局、環境局その他川崎市各局職員の参加をいただいている。

(ウ) 定例会・リエゾン交流会 (1回実施)

「定例会・リエゾン交流会」は、会員企業の現地視察要望を踏まえて、臨海部及び関連地域での会員企業や関連企業の先進事例等について、川崎市及び神奈川県職員にも参加を呼びかけ、会員相互及び行政職員との共通認識の形成を目的とする「リエゾン交流会」として視察見学会を企画したが、コロナ禍の影響で2020年度に企画をした交流会はすべて中止となった。コロナ禍での新しい試みとして、以下のとおりオンラインでの視察説明会を開催した。

<通算第43回交流会(オンラインによる脱水素実証施設説明会)>

- ・日時 2021年2月24日(水)
- ・開催方法 Microsoft Teams を使用した Web による視察説明会
- ・説明内容 国際間水素サプライチェーン実証事業概要
脱水素プラント@川崎プラントの説明
- ・説明者 次世代水素エネルギーチェーン技術研究組合
- ・参加者 24名

(エ) 川崎市・リエゾンセンター定例情報交換会 (12年目)

本情報交換会は、開催し臨海部関連情報等を交換し相互協力により事業の円滑な推進を図ることを目的として毎月定例的に開催をしてきたが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため対面での開催は1回にとどめ、残りの各月はメールによる情報共有を行った。共有した情報についてはメール配信により全会員企業に提供をした。

参加者 川崎市; 臨海部国際戦略本部臨海部事業推進部、経済労働局国際経済推進室
環境局地球環境推進室の課長、係長、担当職員
当 NPO 法人 正副幹事長、専務理事、事務局

(オ) 会報の発行(年 3 回発行)

<第 37 号> (2020 年 9 月 1 日発行)

「第 65 回理事会」・「第 16 回通常総会」、「役員の変更」、初めての Web による「幹事会」・「臨海部ビジョン・リエゾン研究会」の開催

<第 38 号> (2020 年 12 月 1 日発行)

「第 67 回理事会」・「川崎市との政策懇談会」、
初めての Web ライブ配信「川崎臨海部活性化推進協議会」、
「川崎臨海部道路等に関する企業・行政懇談会」・「循環型地域社会の形成に向けた環境産業との連携に関する連絡会議」、「スマートコンビナート・シンポジウム」

<第 39 号> (2021 年 3 月 31 日発行)

「第 68 回理事会」・「川崎市との政策懇談会」、
2 回目の Web ライブ配信「川崎臨海部活性化推進協議会」、
初めてのオンラインによるリエゾン交流会(視察研修会)の開催

※会報は、会員向けの当 NPO 法人に係る広報として、NPO 法人の活動状況、会員企業の臨海部関連情報などを提供している。

イ リエゾン研究・検討会(臨海部道路・資源循環に関する研究・検討会)

(ア) 川崎臨海部道路等に関する企業・行政懇談会(通算第 22 回)

<日時・場所> 2020 年 10 月 13 日(火) ミューザ川崎シンフォニーホール研修室

<懇談内容> 臨海部における道路工事等の進捗状況と今年度の工事予定、意見交換

[川崎市等からの出席者] 建設緑政局、港湾局、臨海部国際戦略本部、川崎市、
臨港警察署、上下水道局から課長職等 21 名が出席

[会員企業の出席] 事務局を含めて 18 名が出席

※この懇談会は、臨海部道路を中心とする冠水問題を契機として川崎市建設緑政局の呼びかけにより 2009 年 11 月に発足した。

(イ) 循環型地域社会の形成に向けた環境産業との連携に関する連絡会議

<日時・場所> 2020 年 10 月 13 日(火) ミューザ川崎シンフォニーホール研修室

<懇談内容> 令和元年東日本台風に伴う災害廃棄物への対応について、川崎市プラスチック資源循環への対応方針(案)について

[川崎市からの出席者] 環境局生活環境部、臨海部国際戦略本部から部長・課長・
係長等 7 名が出席

[会員企業の出席] 事務局を含めて 17 名が出席

※この連絡会議は、環境産業と行政との連携の推進により地球環境にやさしい持続可能なまちの実現を目的に環境局生活環境部の呼びかけにより 2009 年に発足した。

ウ 情報発信事業

(ア) 「スマートコンビナート・シンポジウム」(第 11 回)の開催

[開催日時] 2020 年 10 月 29 日(木) 14:00~16:30

[場所] 川崎市産業振興会館 1階ホール

【目的・活動概要】

本シンポジウムはこれまで「臨海コンビナート都市連携シンポジウム」として10回にわたり、鹿島、京葉、京浜のコンビナート地域等の先進的な取組事例等を取り上げ、地域間連携や事業所間連携、産学官連携によるスマートコンビナートを目指した議論を深めてきた。

今回は、新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮しWebでの聴講を取り入れながら、コンビナート連携に焦点をあて、地域間や産学官・事業所間の連携など臨海部地域での先進的な取組の情報発信を図り、あわせて全国各地のコンビナートに呼びかけ先進事例をビデオメッセージ方式で紹介し相互の情報共有を図った。

[内容]

■基調講演

「コンビナート連携の成果と今後の展望」～地域内連携から地域間連携に向けて～
成城大学 経済学部経営学科 教授 平野 創 氏

■特別講演（事例発表）

テーマ：「スマートコンビナートを目指して 川崎臨海部の取組み」

講演者

次世代水素エネルギーチェーン技術研究組合 専務理事 鍛冶 尚弘 氏

(1) [ブルネイ・川崎国際間水素サプライチェーン実証の取組について]

昭和電工(株)川崎事業所

企画統括部兼プラスチックケミカル推進室長 栗山 常吉 氏

(2) 「廃棄プラスチックからの水素エネルギー再生とその実用展開」

川崎市臨海部国際戦略本部 臨海部事業推進部 部長 東 哲也 氏

(3) 「臨海部ビジョンの推進について」

■各地コンビナートからの事例発表(収録したビデオメッセージの紹介)

「周南コンビナートを核とした地域資源活用取組について」(周南市)

「大分コンビナートからご挨拶 操業50周年を迎えて」

[主催] 当NPO法人 [共催] 川崎市

[後援] 関東経済産業局、神奈川県、茨城県、千葉県、川崎商工会議所、公益財団法人川崎市産業振興財団、石油コンビナート高度統合運営技術研究組合(RING)、(株)化学工業日報社

(イ) 展示会等への出展

a 第13回川崎国際環境技術展

[開催期間] 2021年1月21日(木)～2月5日(金)

オンライン開催

[内容]

コロナ禍の中での開催となった今回は、アフターコロナにおける新しい生活様式(New

Normal)に即した取組として、従来の目的に加え、グリーンリカバリーへの意識醸成や新たなビジネスモデルへの意識転換のため、初のオンライン展示会となりました。当センターのブースでは、センター事業の概要を説明する動画、「会員企業の地域貢献活動」、「会員企業の地球温暖化対策の取組」、「会員企業の低CO2川崎プラント受賞一覧」の情報を取り上げた。

b 川崎区企業市民交流事業推進委員会主催の「知ろう、学ぼう、かわさき市民企業交流 Day」

[日時] 2020年11月22日(日) 10:30~15:00

[場所] 川崎ルフロン(川崎区日進町1-11)

[内容]

当NPO法人及び会員企業の活動状況の紹介パネルを展示した。また、会員企業の東京ガス(株)川崎支店が「廃ガス管を使って万華鏡を作ってみよう!」の体験型プログラムを提供するとともにENEOS(株)川崎製油所、東京ガス(株)川崎支店、東京電力パワーグリッド(株)も出展し活動を紹介した。

(ウ) ホームページを通じた情報発信等

ホームページを通じて、「会員企業の最新の動向」として、会員企業の事業活動に係る最新情報を発信するとともに、当NPO法人が実施した活動を随時掲載した。

※「会員企業の最新の動向」については各社のホームページから「技術革新」、「国内外展開」の視点から情報収集し毎月掲載した。(2012年1月から実施。)

(2) 受託事業

川崎市から次の2事業を受託した。

ア「川崎臨海部活性化推進協議会」運営等業務(臨海部国際戦略本部)

前年度に引き続き上記協議会の事務局として2回の協議会の開催・運営を行った。

<令和2年度第1回川崎臨海部活性化推進協議会>

[日時] 2020年10月8日(木) 10:00~12:00

[場所] 川崎市生命科学・環境研究センター1階大会議室(川崎区殿町)

[議題]

(1) 臨海部ビジョンの進捗状況

臨海部ビジョンリーディングプロジェクト中間評価結果及び今後の取組等
(川崎市臨海部国際戦略本部)

(2) リーディングプロジェクトに関する取組

【PJ③水素エネルギー利用推進関連】

国際間水素サプライチェーン実証の現況とその先の事業モデル
(次世代水素エネルギーチェーン技術研究組合(AHEAD))

【PJ④低炭素型インダストリーエリア構築関連】

プラスチック包装容器に関する取組みと新型コロナウイルス感染症対策
(花王(株)川崎工場)

(3) 特別講演

新型コロナウイルスを改めて見直し、企業活動に活かす
(川崎市健康安全研究所 岡部所長)

(4) 情報提供

- ・羽田連絡道路及び東扇島水江町線の整備状況
- ・羽田空港の新飛行経路の運用状況等
- ・脱炭素戦略「かわさきカーボンゼロチャレンジ 2050」への賛同について

<令和2年度第2回川崎臨海部活性化推進協議会>

[日時] 2021年3月25日(木) 14:30~16:30

[場所] 川崎市生命科学・環境研究センター1階大会議室(川崎区殿町)

[議題]

(1) 臨海部ビジョンの進捗状況について

「PJ②資産活用・投資促進プロジェクト」について

「PJ③交通機能プロジェクト」について

(2) リーディングプロジェクトの取組状況について

【PJ③水素エネルギー利用関連】

- ・ENEOSの水素社会実現への取組み(ENEOS株式会社)
- ・廃棄プラスチックからの水素エネルギー再生とその実用展開(昭和電工株式会社)

(3) 情報提供

- ・羽田連絡道路の整備状況
- ・東扇島水江町線の整備状況
- ・羽田空港の新飛行経路の運用状況等
- ・令和2年度川崎臨海部広域防災訓練の実施状況

イ 「川崎市環境・産業交流コーナー」管理運営業務(経済労働局)

前年度に引き続き、会員企業及び臨海部企業の環境への取組を中心とした活動の交流・広報の場として、また、川崎市の関連イベントの紹介の場として、川崎市産業振興会館12階の「川崎市環境・産業交流コーナー」の管理・運営を行った。

なお、新型コロナウイルス感染症対策のため、国や市の方針に従い、緊急事態宣言下での開館日の削減要請に対応した他、市民等との交流事業の一部(見学会)について中止とした。

展示会での紹介として、今回初めてのWeb開催となった第13回川崎国際環境技術展に出展し、当センターのブースでは、動画やパネル画面で会員企業を中心とする臨海部企業の取組を紹介し広く広報した。ブースへのアクセス数は約100名であった。

(3) 各種協議会、委員会等への参加

次の各種協議会、委員会等に参加し、川崎市等との連携のもと、それぞれの目的達成に向けて活動した。

ア 「川崎温暖化対策推進会議（CC 川崎エコ会議）」（事務局川崎市環境局地球環境推進室）

[会長] 足立芳寛理事長

[理事]（内、会員企業 5 社—味の素(株)、ENEOS(株)、J F E スチール(株)、
東京ガス(株)、東京電力パワーグリッド(株)

[運営委員会] 委員長 小泉専務理事

[委員]（内、会員企業 2 社—東京ガス(株)、東京電力パワーグリッド(株)

[主な実施事業]

第 9 回スマートライフスタイル大賞表彰式が 2020 年 10 月 30 日(金)に開催された。

※当リエゾンセンターの会員企業である東京ガス(株)川崎支店の「地球においしい『エコッキング®』」が第 9 回スマートライフスタイル大賞奨励賞を受賞した。

イ 「低 CO2 川崎ブランド等推進協議会」

[構成団体] 川崎市産業振興財団・川崎商工会議所・当 NPO センター

[委員長] 足立芳寛理事長（併せて審査部会委員長）

[委員] 小泉専務理事（併せて運営・推進部会委員）

[主な活動内容]

川崎市と産業支援団体等が連携し「低 CO2 川崎ブランド」及び「川崎メカニズム認証制度」の認定・認証を行うとともに、認定・認証製品等のより一層の普及促進を図る活動を展開した。

2021 年 1 月 28 日に「2020 年度低 CO2 川崎ブランド」認定結果式が行われ、次の会員企業が認定を受けた。

旭化成(株) [「ザイロン」ニッケル水素電池セルケース]

JFE スチール(株) [「省資源型製鋼技術『DRP®』」]

(2009 年度からの認定企業数は会員企業累計 15 社・31 件、全市合計 98 件)

また、次の会員企業が「2020 年度川崎メカニズム」の認証を受けた。

旭化成(株) [「ザイロン」ニッケル水素電池セルケース]

昭和電工(株) [使用済みプラスチックのケミカルリサイクルにより

製造されるアンモニア「ECOANN®」]

ウ 「川崎国際環境技術展実行委員会」（事務局 川崎市経済労働局国際経済推進室）

[監事] 足立芳寛理事長

[企画部会] 味の素(株)、ENEOS(株)、J F E エンジニアリング(株)、
J F E スチール(株)、東京ガス(株)

エ 「川崎区企業市民交流事業推進委員会」(事務局川崎区まちづくり推進部地域振興課)

[委員] 長瀬事務局長、

[会員企業] 味の素(株)、ENEOS(株)、J F E スチール(株)、昭和電工(株)

東京ガス(株)、東京電力パワーグリッド(株)、富士電機(株)

オ 「川崎市環境審議会地球温暖化対策基本計画改定部会」(事務局 川崎市環境局)

[臨時委員] 小泉専務理事

[主な活動内容]

川崎市地球温暖化推進基本計画の改定にあたり「川崎市環境審議会」に設置した「温暖化対策基本計画改定部会」に委員として参加した。1月28日と3月19日に開催された2回の部会に出席した。

カ 当法人及び会員企業が参加するその他の主な会議

a 京浜臨海部コンビナート高度化等検討会議

[目的] 川崎臨海部のコンビナートにおいて、企業間連携による高度化の取組について検討・事業化を図ることにより高付加価値・環境共生型の産業集積をめざす。

[設置] 2008年1月

[構成員] 臨海部立地企業、経済産業省(資源エネルギー庁、関東経済産業局)、神奈川県、川崎市、横浜市、当 NPO 法人

[事務局] 神奈川県政策局自治振興部地域政策課、川崎市経済労働局国際経済推進室

<第1回>2020年6月30日(火)に承認

新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため書面により開催

<第2回>2020年10月21日(水)に承認

新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため書面により開催

b 川崎臨海部防災協議会

[目的] 東日本大震災の経験を踏まえて、川崎臨海部における災害の未然防止や発生した災害の拡大防止を図るとともに、市民及び従業員等の安全確保及び二次災害の防止、企業の事業継続性の確保などの課題について協議・検討する。

[設置] 2012年1月

[構成員] 臨海部立地企業、臨海部関連産業団体及び川崎市

会員企業から旭化成(株)、ENEOS(株)、(株)クレハ環境、J F E スチール(株)、昭和電工(株)、東亜石油(株)、富士電機(株)及び当 NPO 法人

[事務局] 川崎市総務企画局危機管理室、臨海部国際戦略本部臨海部事業推進部

[活動概要] 地域防災力の充実・強化、防災対策の進捗状況、新型コロナウイルスに対する川崎市の対応、今後の取組等が検討され、2020年度川崎臨海部広域防災訓練(第6回目)を2021年3月11日に実施した。

<第1回> 2020年6月 新型コロナウイルス感染症対策のため書面開催

<第2回> 日時：2020年11月20日(金)

場所：川崎生命科学・環境研究センター（L i S E）1階会議室

<令和2年度川崎臨海部広域防災訓練>

日時：2021年3月24日(水)

訓練内容

地震発生時に、臨海部各島の交通が途絶したことを想定し、臨海部事業所・団体、行政間でメーリングリスト等を活用した情報伝達訓練を実施した。

3 運営体制等

(1) 役員は11名体制のもとに、理事長を中心に事業計画・予算等の主要な方針を決定するとともに、川崎市との政策懇談会、シンポジウムの実施等の当 NPO 法人の重要な具体事業において主要な役割を担った。

(2) 会員数（2021年3月末現在）

団体会員19社、個人会員16人及び賛助会員2社

(3) 幹事会は、引き続き次の7社で運営した。会合は新型コロナウイルス感染症対策のため Microsoft Teams を使用した Web での開催が多く（5月、6月、1月、3月）、対面での会合は7月と9月のみであった。当 NPO 法人の事業活動の企画・運営全般にわたり協議、意見交換を行い、事業の円滑かつ効果的な推進に努めた。

・幹事長 J F E スチール(株)

・副幹事長 (株)ダイ・シイ

・幹事 E N E O S (株)、東京ガス(株)、(株)浜銀総合研究所、東京電力パワーグリッド(株)、東亜石油(株)

2020年度主な事業の実施経過

特定非営利活動法人

産業・環境創造リエゾンセンター

2020年4月1日～2021年3月31日

<4月>

9日(木) 第1回川崎市・リエゾンセンター定例情報交換会

(コロナ禍のため対面方式情報交換会は中止し、メールでの情報共有を行なった)

15日(水) 第1回幹事会

(コロナ禍のため対面方式の幹事会は中止し、メールでの情報共有を行なった)

<5月>

15日(金) 小澤監事による監査

27日(水) 第2回幹事会(WEB開催)

(書面開催、書面表決)第1回理事会 第2回理事会 (通算第65回・66回)

(書面開催、書面表決)第16回通常総会

(書面開催) 第1回低CO2川崎ブランド推進協議会運営・推進部会

(メール配信)第2回川崎市・リエゾンセンター定例情報交換会

<6月>

8日(月) 第1回川崎区企業市民交流事業推進委員会(川崎区役所会議室)

11日(木) 第1回川崎温暖化対策推進会議(CC川崎エコ会議)運営委員会

11日(木)(書面開催) 第1回低CO2川崎ブランド推進協議会

25日(木)(WEB開催)第3回幹事会

25日(木)(WEB開催)第1回「臨海部ビジョン」リエゾン研究会

(メール配信)第3回川崎市・リエゾンセンター定例情報交換会

<7月>

6日(月) 第1回川崎温暖化対策推進会議(CC川崎エコ会議)理事会

9日(木)(WEB開催) 第1回川崎国際環境技術展実行委員会

15日(水) 第4回幹事会(産業振興会館9階研修室)

15日(水) 第2回「臨海部ビジョン」リエゾン研究会(産業振興会館9階研修室)

16日(木) 第2回川崎区企業市民交流事業推進委員会(川崎区役所会議室)

(メール配信)第4回川崎市・リエゾンセンター定例情報交換会

<8月>

(メール配信)第5回川崎市・リエゾンセンター定例情報交換会

27日(木) 第2回川崎温暖化対策推進会議(CC川崎エコ会議)運営委員会

<9月>

1日(火) 会報発行(第37号)

3日(木) 第6回川崎市・リエゾンセンター定例情報交換会(産業振興会館10階会議室)

10日(木) 第2回低CO2川崎ブランド推進協議会運営・推進部会

- 16日(水)第5回幹事会(教育文化会館3階研修室)
16日(水)第3回「臨海部ビジョン」リエゾン研究会(教育文化会館3階研修室)
24日(木)第2回低CO2川崎ブランド推進協議会
(メール配信)第6回川崎市・リエゾンセンター定例情報交換会

<10月>

- 5日(月)(WEB開催)第3回川崎区企業市民交流事業推進委員会
8日(木)第1回川崎臨海部活性化推進協議会
(川崎市生命科学・環境研究センター1階大会議室 {川崎区殿町})
13日(火)第1回川崎臨海部道路等に関する企業・行政懇談会
(ミューザ川崎シンフォニーホール研修室)
13日(火)循環型地域社会の形成に向けた環境産業との連携に関する連絡会議
(ミューザ川崎シンフォニーホール研修室)
21日(木)(WEB開催)第6回幹事会
21日(木)(WEB開催)第4回「臨海部ビジョン」リエゾン研究会
29日(木)スマートコンビナート・シンポジウム(第11回)
(川崎市産業振興会館 1階ホール)
30日(金)第9回スマートライフ大賞受賞式
(メール配信)第7回川崎市・リエゾンセンター定例情報交換会

<11月>

- 9日(月)第3回理事会(通算第67回)(川崎市産業振興会館 1階ホール)
9日(月)第1回川崎市との政策懇談会(川崎市産業振興会館 1階ホール)
12日(木)第2回川崎国際環境技術展実行委員会(川崎市役所第3庁舎会議室)
20日(金)川崎臨海部防災協議会
(川崎市生命科学・環境研究センター1階大会議室 {川崎区殿町})
22日(日)「かわさき市民企業交流Day」川崎ルフロン(川崎区日進町1-11)
25日(水)第4回川崎区企業市民交流事業推進委員会(川崎市教育文化会館)
(メール配信)第8回川崎市・リエゾンセンター定例情報交換会

<12月>

- 1日(火)会報発行(第38号)
24日(木)(WEB開催)第5回「臨海部ビジョン」リエゾン研究会
(メール配信)第9回川崎市・リエゾンセンター定例情報交換会

2021年

<1月>

- 14日(木)(WEB開催)第7回幹事会
21日(木)~2月5日(金)(WEB開催)第13回川崎国際環境技術展
28日(木)(WEB開催)第1回川崎市環境審議会地球温暖化対策基本計画改定部会
(メール配信)第10回川崎市・リエゾンセンター定例情報交換会

< 2月 >

24日(水) (WEB開催)リエゾン交流・視察説明会

(次世代水素エネルギー技術研究組合による国際水素サプライチェーン実証事業)
(メール配信)第11回川崎市・リエゾンセンター定例情報交換会

< 3月 >

1日(月) 第3回川崎温暖化対策推進会議(CC川崎エコ会議)運営委員会

3日(水) (WEB開催)第8回幹事会

9日(火) (WEB開催)第6回「臨海部ビジョン」リエゾン研究会

17日(水) 第3回川崎国際環境技術展実行委員会

18日(木) 第4回理事会(通算第68回)(川崎市産業振興会館 1階ホール)

18日(木) 第2回川崎市との政策懇談会(川崎市産業振興会館 1階ホール)

19日(金) 第2回川崎市環境審議会地球温暖化対策基本計画改定部会

22日(月) 第2回川崎温暖化対策推進会議(CC川崎エコ会議)理事会(書面開催)

23日(火) 第3回低CO2川崎ブランド推進協議会運営・推進部会

24日(水) 通算第6回川崎市臨海部広域防災訓練

25日(木) 第2回川崎臨海部活性化推進協議会

(川崎市生命科学・環境研究センター1階大会議室 {川崎区殿町})

31日(水) 会報発行(第39号)

(メール配信)第12回川崎市・リエゾンセンター定例情報交換会

2020年度活動計算書

2020年4月1日～2021年3月31日				(単位：円)
特定非営利活動法人の名称		特定非営利活動法人 産業・環境創造リエゾンセンター		
科 目	当初予算①	決算額②	差額①-②	
I 経常収益				
1. 受取会費	5,992,000	5,992,000	0	
・ 団体会員	5,700,000	5,700,000	0	300千円×19
・ 賛助会員	100,000	100,000	0	50千円×2
・ 個人会員	192,000	192,000	0	12千円×16
2. 受取寄附金	0	0	0	
2. 事業収益	2,820,000	2,591,795	228,205	
・ 川崎臨海部産学公民連携事業	900,000	899,800	200	
・ スマートコンビナート情報発信交流事業	1,920,000	1,691,995	228,005	開館日数コロナ禍により減少 変更契約あり
3. その他収益	0	83	-83	
・ 雑収益	0	83	-83	預金利息
経常収益計 (A)	8,812,000	8,583,878	228,122	
II 経常費用				
1. 事業費	3,707,000	3,306,656	400,344	
① 自主事業	1,295,000	659,247	635,753	
ア. リエゾン交流会事業費	316,000	0	316,000	コロナ禍のためリアル視察会を中止した
・ 業務費 (会議費、謝金等)	266,000	0	266,000	
・ 諸経費 (通信、印刷等)	50,000	0	50,000	
イ. リエゾン研究会	77,000	18,000	59,000	コロナ禍のため対面での研究会を一部WEB開催に変更
・ 業務費 (会議費、謝金等)	62,000	6,000	56,000	
・ 諸経費 (通信、印刷等)	15,000	12,000	3,000	
ウ. 普及・広報事業費	802,000	625,285	176,715	
・ シンポジウム開催経費	494,000	386,035	107,965	
・ ホームページ経費等	298,000	239,250	58,750	
・ 会報発行経費	10,000	0	10,000	
エ. 研究調査事業費	100,000	15,962	84,038	
・ 業務費 (会議費、謝金、外注費等)	100,000	15,962	84,038	
② 受託事業	2,412,000	2,647,409	-235,409	
ア. 川崎臨海部産学公民連携事業	765,000	1,131,969	-366,969	川崎臨海部活性化推進協議会運営
・ 人件費	100,000	100,000	0	
・ 業務費 (会議費、謝金、外注費等)	621,000	983,495	-362,495	川崎臨海部活性化推進協議会のWEBライブ配信により経費増
・ 諸経費 (通信、印刷等)	44,000	48,474	-4,474	
イ. スマートコンビナート情報発信交流事業	1,647,000	1,515,440	131,560	川崎市環境・産業交流コーナー運営等
・ 人件費	1,400,000	1,360,000	40,000	
・ 業務費 (会議費、謝金、外注費等)	184,000	96,000	88,000	
・ 諸経費 (通信、印刷等)	63,000	59,440	3,560	
2. 事務局運営費	6,341,000	5,800,719	540,281	
① 人件費	4,197,000	4,146,969	50,031	
・ 役員報酬	2,040,000	1,860,000	180,000	
・ 職員給与	1,540,000	1,627,998	-87,998	
・ 法定福利費	617,000	658,971	-41,971	
② その他経費	2,144,000	1,653,750	490,250	受託事業費増額の為、経費圧縮に努めた
・ 什器備品費	196,000	14,043	181,957	
・ 事務費 (通信、印刷等)	151,000	40,726	110,274	
・ 賃貸料 (事務所他)	130,000	113,731	16,269	
・ 旅費交通費	617,000	445,176	171,824	
・ 雑費	780,000	772,074	7,926	謝金、振込手数料、租税公課、新聞等
・ 税理士報酬	200,000	198,000	2,000	
・ 法人税等	70,000	70,000	0	住民税 (県税、市税)
3. 予備費	700,000	0	700,000	
経常費用計 (B)	10,748,000	9,107,375	1,640,625	
III 当期正味財産増減額 (A) - (B) = (C)	-1,936,000	-523,497	-1,412,503	
前期繰越正味財産額 (D)	6,202,677	6,202,677	0	
IV 次期繰越正味財産額 (D) + (C)	4,266,677	5,679,180	-1,412,503	
計算書に対する注記				
1. 各受託事業の人件費は職員給与の一部である。				